

1965年 大会記録

国際

◇全米選手権（4月13～17日、米国・サンフランシスコ）

《フリースタイル》▼フライ級 阿部享（日大）、▼バンタム級 池田国弘（中大）＝2位、▼フェザー級 岩野開（同志社大）、▼ライト級 川端正昭（同志社大）、▼ウェルター級 渡波節儀（横浜カントリー）、▼ミドル級 森邦弥（法大）

《グレコローマン》▼フライ級 井上康弘（日大）、▼バンタム級 金長正之（日大）、▼フェザー級 佐藤秀雄（関大）、▼ライト級 大石四郎（明大）、▼ウェルター級 伊藤正勝（専大）、▼ミドル級 松藤征三（専大）

◇世界選手権＝フリースタイル（6月1～3日、英国・マンチェスター）

▼フライ級 吉田嘉久（法大）＝優勝、▼バンタム級 福田富昭（日大）＝優勝、▼フェザー級 森田武雄（明大）＝3位、▼ライト級 堀内岩雄（電電公社）＝6位、▼ウェルター級 渡辺保夫（明大）＝3位、▼ミドル級 殿村明大（明大）＝四失、▼ライトヘビー級 滝沢信也（日大）＝二失、▼ヘビー級＝派遣なし

◇世界選手権＝グレコローマン（6月6～8日、フィンランド・タンペレ）

▼フライ級 月岡金四郎（法大）＝三棄、▼バンタム級 桜間幸次（自衛隊）＝4位、▼フェザー級 加藤隆三（日体大）＝四失、▼ライト級 宗村宗二（明大）＝4位、▼ウェルター級 太田克亮（日体大）＝5位、▼ミドル級 波山龍美（郡上紡績）＝二失、▼ライトヘビー級 開健次郎（自衛隊）＝四失、▼ヘビー級＝派遣なし

国内

◇世界選手権代表選考会（4月1～4日、東京・青山レスリング会館）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 吉田嘉久（法大）、▼バンタム級 田中忠道（法大）、▼フェザー級 森田武雄（明大）、▼ライト級 堀内岩雄（電電公社）、▼ウェルター級 渡辺保夫（明大）、▼ミドル級 殿村明大（明大）、▼ライトヘビー&ヘビー級 滝沢信也（日大）

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 月岡金四郎（法大）、▼バンタム級 藤本英男（日体大）、▼フェザー級 桜間幸次（自衛隊）、▼ライト級 宗村宗二（明大）、▼ウ

エルター級 太田克亮（日体大）、▼ミドル級 波山龍美（郡上紡績）、▼ライトヘビー級&ヘビー級 丸山彰二（滝野川自動車）

◇東日本学生リーグ戦（4月24日～5月23日、東京・青山レスリング会館）

《順位》[1] 中大（2年ぶり9度目）、[2] 日大、[3] 明大、[4] 専大、[5] 法大、[6] 日体大、[7] 早大

◇西日本学生春季リーグ戦（5月20～23日、大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 関大（3季連続18度目）、[2] 同志社大、[3] 関学大、[4] 近大、[5] 名商大、[6] 名城大、[7] 桃山学院大

◇東日本学生春季新人戦（6月12～13日、東京・青山レスリング会館）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 畑ヶ谷恵一（明大）、▼バンタム級 堀江（法大）、▼フェザー級 山田（中大）、▼ライト級 河内政彦（明大）、▼ウエルター級 鈴木協夫（明大）、▼ミドル級 山田（明大）、▼ライトヘビー級 高倉洋一（日大）、▼ヘビー級 妹尾（専大）

※フリースタイルのみ

◇西日本学生選手権（ ）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 木川信忠（近大）、▼バンタム級 井筒雄三（同志社大）、▼フェザー級 岩野開（同志社大）、▼ライト級 中野憲一（関大）、▼ウエルター級 中島一彦（桃山学院大）、▼ミドル級 川端正昭（同志社大）

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 松田嘉之（関大）、▼バンタム級 山本邦夫（関大）、▼フェザー級 佐藤秀雄（関大）、▼ライト級 井関隆次（近大）、▼ウエルター級 飛岡克己（関学大）、▼ミドル級 藤田裕亮（関大）

◇インターハイ（8月5～8日、大分・佐伯鶴城高）

《学校対抗戦》[1] 東京・京北（初）、[2] 秋田・秋田商、[3] 愛知・名商大、山口・田布施

《個人戦優勝者》▼52kg級 柳田英明（秋田・秋田商）、▼55kg級 諸橋博（新潟・新潟商）、▼58kg級 阿倍巨史（北海道・旭川東）、▼61kg級 栄森光夫（新潟・新潟商）、▼65kg級 浜野喜行（北海道・旭川南）、▼69kg級 野尻修一（富山・高岡商）、▼73kg級 吉田敏忠（愛知・名商大付）、▼73kg以上級 矢田静雄（愛知・名商大付）

◇全日本選手権（8月12～15日、東京・駒沢体育館）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 吉田嘉久（法大）、▼バンタム級 福田富昭（日大）、▼フェザー級 金子正明（自衛隊）、▼ライト級 河内政彦（明大）、▼ウェルター級 渡辺保夫（明大）、▼ミドル級 佐々木竜雄（自衛隊）、▼ライトヘビー級 平塚博（法大）、▼ヘビー級 妹尾武三郎（専大）

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 加藤融（日体大）、▼バンタム級 花原勉（日体大OB）、▼フェザー級 間庭秀夫（日体大OB）、▼ライト級 宗村宗二（明大）、▼ウェルター級 田代俊郎（中大OB）、▼ミドル級 開健二郎（自衛隊）、▼ライトヘビー級 服部勤（日体大）、▼ヘビー級＝出場なし

◇全日本学生選手権（9月9～11日、東京・青山レスリング会館）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 勝村靖夫（日体大）、▼バンタム級 福田富昭（日大）、▼フェザー級 中村文昭（中大）、▼ライト級 飛田義治（中大）、▼ウェルター級 渡辺保夫（明大）、▼ミドル級 鈴木脇夫（明大）、▼ライトヘビー級 遠藤茂（日大）

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 桜間洋二（日体大）、▼バンタム級 藤本英男（日体大）、▼フェザー級 高橋俊介（明大）、▼ライト級 宗村宗二（明大）、▼ウェルター級 太田克秀（日体大）、▼ミドル級 阿倍安雄（国士舘大）、▼ライトヘビー級 近藤茂（日大）

◇全日本社会人選手権（9月26日、東京・青山レスリング会館）

《実業団対抗戦優勝》日野自動車工業A

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 菅芳松（自衛隊）、▼バンタム級 宮内孝憲（中大OB）、▼フェザー級 風間貞勝（日野自動車）、▼ライト級 佐藤多美治（日野自動車）、▼ウェルター級 田中三代志（YMCA）、▼ミドル級 石川忠男（YMCA）、▼ライトヘビー級 岩崎昭雄（不二越鋼材）、▼ヘビー級 高木春雄（京浜土地）

※フリースタイルのみ

◇全日本学生王座決定戦（10月15～16日、東京・駒沢体育館）＝決勝成績

日大○ [4-4] ●明大

※日大は2年ぶり2度目の優勝

◇国体（10月25～28日、岐阜・美濃加茂市加茂高、太田中）

《一般フリースタイル優勝者》▼フライ級 勝村靖夫（山口）、▼バンタム級 福田富昭（富山）、▼フェザー級 金子正明（埼玉）、▼ライト級 堀内岩雄（富山）、▼ウェルター級 伊藤勝春（千葉）、▼ミドル級 渡辺保夫（岐阜）、▼ライトヘビー級 佐々木龍雄（福岡）、▼ヘビー級 妹尾武三郎（秋田）

《一般グレコローマン優勝者》▼フライ級 加藤融（岐阜）、▼バンタム級 岡崎巖（山口）、▼フェザー級 加藤隆三（岐阜）、▼ライト級 新莊建彦（山口）、▼ウェルター級 宗村宗二（新潟）、▼ミドル級 波山竜美（岐阜）、▼ライトヘビー級 風間貞夫（新潟）、▼ヘビー級 川野俊一（埼玉）

《高校優勝者》▼52kg級 柳田英明（秋田）、▼55kg級 戒則明（山口）、▼58kg級 天野準衛（秋田）、▼61kg級 阿倍巨史（北海道）、▼65kg級 高島浩（富山）、▼69kg級 柴尾武人（熊本）、▼73kg級 吉田敏忠（愛知）、▼73kg以上級 矢田静雄（愛知）
※少年はフリースタイルのみ

◇東日本学生グレコローマン対抗戦（11月6日、東京・青山レスリング会館）=決勝成績

明大○ [4-3] ●日体大

※明大は4大会連続4度目の優勝

◇東日本学生秋季新人戦（ 、東京・青山レスリング会館）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 、▼バンタム級 、▼フェザー級 、▼ライト級 、▼ウェルター級 、▼ミドル級 、▼ライトヘビー級 、▼ヘビー級

※フリースタイルのみ

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月25～28日、大阪府立体育館別館）

《順位》[1] 関大（4季連続19度目）、[2] 関学大、[3] 同志社大、[4] 名商大、[5] 名城大、[6] 近大、[7] 桃山学院大